

寮担当

コロナ禍の全寮制生活においても「チーム医療を担うマインドはできている」

富士吉田教育部 教授 **金丸 みつ子**

2021年度は、富士吉田寮最古の赤松寮の解体が始まり、新築のゆり寮がオープン、コロナ禍の寮生活は2年目に突入しました。

PCR検査で全員陰性を確認して入寮し、不織布マスク生活、朝晩の検温、除菌シートによる清拭、手指消毒、座席指定の講義、テーブル片面利用で時間指定の食事、シャワーのみの時間指定による入浴、学外への外出・外泊不可（医療機関利用や慶弔には対応）、部活動・サークル活動不可等、厳しい規制のもとで全寮制生活がスタートしました。学生たちは、2回目のPCR検査で全員陰性が確認できるまで、と頑張ってくれました。

規制が緩和された後は、サークル活動、温泉をひいた湯船と足湯、寮祭、流星群など、富士吉田のキャンパスライフを楽しんでくれたようです。各寮では、寮長、副寮長、各階のフロア委員が、毎日の点呼をはじめ、フロアごととして寮ごとの自治に尽力してくれました。各部屋の室長とメンバーは、声を掛け合い協力してくれました。このような寮生活において、昨年も今年も新型コロナウイルス感染者を一人も出すことなく、コロナ禍の全寮制生活を無事に終えることができました。

完全退寮時の最後のミーティングで、複数のフロア委員が「達成感」を挙げてくれました。このような異例の全寮制生活にあっても「チーム医療を担うマインドはできている」と目頭が熱くなりました。

寮監

コロナ禍における寮生活を振り返って

百合寮寮監 **菊地 美恵子**

学生の入寮は、新型コロナウイルスのパンデミックと緊急事態宣言発令により、令和2年度は約2か月間、令和3年度は約8か月間となりました。従来の寮生活に加えクラスターを出さないために、全教職員一丸となって対応してまいりました。

新入寮生にとっては、感染対策を遵守する中でのスタートとなりました。特に、食事、入浴の際は、マスクを外すため黙食、無言がルールですが、若い学生にとって会話や社会的距離を我慢することは至難の業であったと思います。さらに、入寮時ごとの定期的な、また、緊急時の臨時的PCR検査、コロナワクチン注射後の副反応、発熱時や特別外泊後の隔離生活等を体験しました。学生の皆さんのこうした努力により、感染者の発生はありませんでした。そして、ご褒美のようにバブル管理の中で、体育祭、ハロウィーン、寮祭を学生自身が企画・運営し、笑顔と全力で楽しんでいる姿がありました。

コロナ禍という苦境の中で、それぞれ様々なストレス・悩みがあったと思いますが、部屋メン（同室のメンバーの略称）や友人、ご家族、校医、教員やカウンセラー等に相談し、悩みながらも自分の気持ちに向き合っていたように思います。学生の皆さんが、自分自身を大切にしながら、自分らしくご成長されることを願っております。

寮生活 高校4年生

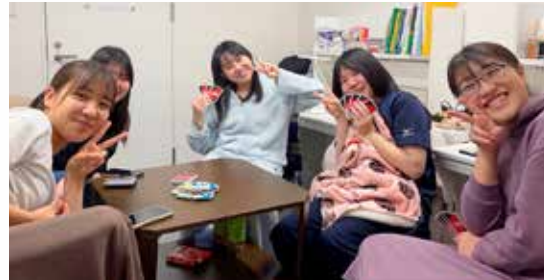
医学部医学科 **阿部 頌平**
（青山学院高等部出身）



世界中でコロナウイルスが蔓延しているなかで、今年度私たちは約8か月間寮生活を送ることができました。昭和大学の寮生活はまるで高校4年生のようです。前期は様々な制約が多くあったとはいえ、通常の対面授業に加え、体育祭が開催されました。後期も対面授業が継続されワクチン接種後ということもあり、

日常的な場面ではマスクを外し生活できました。さらに寮祭も開催でき、私たちは一生忘れられない思い出を日々の生活やイベントを通してつくることができました。さらに、この8か月で行った学部連携の授業は今後の学びや医療人になってからも活かされるものであり、また友人関係は今後もずっと続いていくものであると思います。

コロナ禍でありながら、私たち昭和大学一年生は今年度入学した日本中のどの大学一年生よりも充実した楽しい大学生活をスタートできたのではないのでしょうか？ この在寮期間で、一生忘れられない生活を送ることができると思います。最初は「大学生になって寮生活か!？」と思う方がいるかもしれませんが、私もその一人でした。しかし、いざ生活して



みれば楽しさが上回りそのようなことは忘れられます。ぜひ来年度の方々にも忘れられない一生の思い出を作りたいと思います。

編集後記

今号は、これまでにない誌面構成となりました。通常どりの4面構成の本体に加え、別編集の特別号を挟み込み誌面とする特別号となっています。

例年、新年度最初の発行となる春号は新入生をおもな読者に想定し、富士吉田キャンパスでの日々の生活を紹介する記事を中心に構成しています。いわば、富士吉田キャンパスのガイドブックとなるもので、やや硬めの記事が並びます。他方、年間の最大イベントは寮祭です。講義や実習、演習では見ることのできない学生の素顔がそこそこに垣間

寮生活 みんなの寮長として

保健医療学部看護学科 **上小路 波奏**
（日本大学第二高等学校出身）



昨年4月12日、入学式を迎えると同時に富士吉田校舎での大学生活がスタートしました。初めは慣れない寮生活に不安を覚えていましたが、自分が百合寮長に任命されたと知り、一気に背筋が伸びたような気がしました。

寮長としての役割は百合寮生が快適に生活できるようにすることですが、やはり自分ひとりでそれを果たすことは不可能でした。フロア委員や部屋メン（同室メンバーの略称）、学科の友達、寮監先生などあらゆる人の力がなければ、寮長の職務を全うすることはできなかったと思います。

この寮生活を通して感じたことは、周りの人の力の偉大さ、他人と信頼関係を築くことの大切さや難しさです。日ごろから人との関わりを重んじ、思いやりの心を持って接していれば自分が困ったとき、その人たちが助けてくれるということを改めて実感しました。これは医療人として現場に出ても同じことが言えると思うので、今後も寮生活で学んだことを胸に日々精進していきたいです。

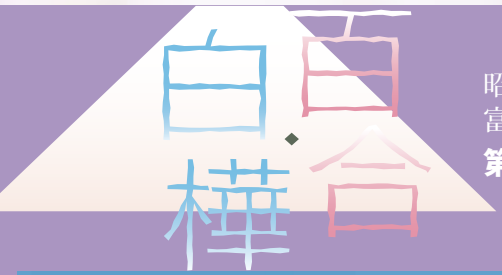
最後になりますが、寮監先生をはじめ、寮担当の先生、食堂の方々、事務課の方々など私たちの寮生活を素晴らしい思い出にくださった皆さん、またこんな私を寮長として支えてくれた全百合寮生に感謝いたします。ありがとうございました。



富士吉田教育部 教授 広報編集委員長 **田中 周一**

見えるこの寮祭特集を特別号仕立てとし、キャンパス生活を演出する二つの場面による二部構成としたのが今号です。

どちらか一方のみでも誌面として成立するかたちとなっていますので、もしもこの本体誌面のみを手になさった際に特別号のほうもお求めでしたら、どうぞタイトルに記載の富士吉田校舎までお申し出ください。



昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第42号 2022.4.3 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



「富士吉田市 上吉田より」富士吉田教育部 萩原康夫 教授 撮影

新入生の皆さんを歓迎いたします

学校法人昭和大学 理事長 **小口 勝司**

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この富士吉田校舎での全寮制教育は医系総合大学である本学における特色であり、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部の4学部の学生が共同して衣食住をともにします。共同生活を送ることで相手を思いやる心を育み、学部間交流を積極的に行い、意見交換の場としていただきたいと思います。将来を担う人間性豊かな医療人となることを念頭に切琢磨磨する皆さんの努力は必ず実を結び、自身の糧となります。この寮生活の経験がチーム医療の根底を学ぶよい機会となることを心より期待しております。

本学は創立者である上條秀介博士が掲げた「至誠一貫」の建学の精神のもと、社会に貢献する優れた医療人を育成してまいりました。昭和39年昭和大学富士吉田校舎を竣工して以来、この地に根つき平成27年には富士吉田市と地域の課題解決および活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的とした「包括的連携協力に関する協定」を締結し、友好的な関係を築いております。また昨年は、富士吉田キャンパスに新たな百合寮が竣工しました。加えて、自然教育園の整備を引き続き行うとともに、新学生寮やスモールグループスタディセンター（SGSC）の建設計画についても検討します。施設設備の面からも学生が幅広い視野を養い、医療人に成長していく歩みをサポートします。

本法人は盤石な財政基盤のもと、常に最新の設備で最高の教育を提供してまいります。ご父母の皆様におかれましても、ご理解ご協力をいただき共にお子様が医療人として大きく成長していく姿を見守っていただきたく存じます。

最後になりましたが、富士吉田校舎の教職員、皆さんのご家族ならびに関係の皆様のご協力のもとに富士吉田校舎における新生活がスタートできますことを感謝申しあげてご挨拶とさせていただきます。

医療人への基礎作りの場：富士吉田キャンパス

昭和大学 学長 **久光 正**

昭和大学1年生の皆さん、富士吉田キャンパスによろこそ。皆さんは将来、医療に携わることで社会に貢献することをめざし、本学に入学しました。本学の特徴は医療人になる基礎作りを富士吉田で1年間の学部混合全寮生活を通して行うことです。医療は「ひと」に施すものです。それぞれの患者さんは異なる歴史、生活、習慣により築き上げた異なる人生を歩んでいます。これらの人々に対応するには皆さんがしっかりした医療人マインドをもたなくてはなりません。挨拶、礼儀、作法、思いやり、遵法精神、対話力などの上に医療の知識や技術を積み上げていくのです。

昭和46年、今から50年前に私も富士吉田で1年間を過ごしました。当時は医学部と薬学部の2学部でした。男子は8人部屋で両学部4名ずつ、2段ベッド4つの寝室と8つの机がある勉強部屋で寝食を共にしました。その時の1年間で私たちは精神的に大きく成長したことを今、確信しています。その成長のきっかけは、友人達との対話でした。政治・恋愛・趣味、いろいろな話題について、深夜まで語り合ったことを覚えています。皆さんも、友人と大いに議論して心を鍛えていただきたいです。

今年度はいまだ新型コロナ感染症の終息が見られず、ひき続き感染予防に厳重な注意が必要です。医療人を目指して学修する皆さんには特に必要なことでもあります。大学も感染予防のため最大限の努力をしますので皆さんも諸注意を厳守してください。

富士吉田の1年は皆さんの医療人としての人生の貴重な第一歩です。大いに羽ばたいてください。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮（男子寮）」「百合寮（女子寮）」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

授業 昭和大学だからなしえた授業

薬学部薬学科 吹切 真帆
(青森県立八戸高等学校出身)

今年度の昭和大学の授業は新型コロナウイルスの影響のため、ゴールデンウィーク後や後期授業スタート時などの一時期は一時的に退寮し在宅でのオンライン授業となりましたが、この期間はGoogle Meet等を利用した授業となりました。

オンラインならではのトラブルが起きた際には、学生同士で協力して対処したことが何度かありました。また、私自身も初めは慣れないパソコン操作に苦労し、時には友人に助けを求めたりもしていました。どのような状況でも臨機応変に対応し、協力して問題を解決しようとする学生達のその精神は、まさに医療人としての礎であり、昭和大学が目標として掲げるチーム医療が実践されていると感じた瞬間でもありました。

入寮後は2回のPCR検査が行われ、全員の陰性が確認されたなかでの対面授業となりました。画面越しで会うことになった仲間達と、再び顔を合わせて同じ空間で学ぶことができるのは、大変嬉しいことでした。自宅でひとりで学習するのと、周りに同じ志を持った仲間がいて、共に学習するのはまったく環境が異なり、対面で授業を行えることのありがたさを実感しました。

最後となりましたが、新型コロナウイルスによる社会の情勢に柔軟に対応し、どのような状況下においても、私達のために質の高い授業をしてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



実習 人と人をつなぐコミュニケーション

保健医療学部作業療法学科 阿相 日菜梨
(玉川聖学院高等学校出身)

誰かとコミュニケーションをとる際に「言葉」はとても大切であると思います。そしてその言葉は相手のことを支えたり温かい気持ちにさせることもあれば、時に傷つけてしまうこともあります。

医療者が患者さんと関わる際に、「その人に合った最善の治療」を考え提供することはもちろん大切ですが、それ以前に、患者さんやご家族、医療者の間でのコミュニケーションをとることが大切だと授業を通して実感しました。

作業療法学科では、「その人にとって意味のある作業とはなにか」を患者さんの価値・習慣・文化・環境・興味・役割という様々な面から考えていきました。「なぜその作業なのか、なぜしたいのか」本人のいろいろな考えを聞き、意味を深めていきます。また、作業療法を行ううえで、相手の力を伸ばし、主体性を損なわないようにすることから、本人にできる手伝いはせず、頑張ってもらうためにあえて手を添えずに、見守ることも大切であると学びました。

医・歯・薬・看護・理学療法・作業療法それぞれに、それぞれの職種ならではの患者さんの見方があります。自分の職種では「当たり前」になっている考え方は、他の職種や患者さんからすれば時に全く思いもよらない考えであり、それを相手に伝えること、どのような言葉を用いたら相手にうまく伝えることができるのかを考えることの大切さは、全学部合同の授業があったからこそ気づくことができました。

また、2021年度は対面授業とオンライン授業の双方がありました。コミュニケーションを主とする授業では、オンラインでは相手の表情や声色などが読み取りにくく、コミュニケーションの取りづらさを実感しました。対面で授業を受けることの大切さを実感するとともに、できる限り対面での授業を行えるようにくださった先生方に感謝をしています。

前期中央委員長 中央委員のすゝめ

医学部医学科 寺井 剛
(駒込高等学校出身)

中央委員の仕事の担う意義とはなんでしょうか。私は、「医療人に必要な経験を確実に積むための土台を築くことができること」、そこに中央委員として働く意味があると思います。

中央委員は、いわゆる高校の生徒会活動のように、陰ながら先生方をはじめとする学校関係者の方々や学生との橋渡し役となり、学生の要望や先生方の意向のとりまとめを行うなど、必要に応じて主体的に行動することが求められます。そして、それを踏まえ、自らがどのように動くことが最善であるのかを考え続けることこそが、中央委員としての本質であり、またそれは良き医療者になるうえで、大切な要素の一つになると考えます。

後期中央委員長 中央委員会って何?

医学部医学科 染谷 康貴
(聖光学院高等学校出身)

白樺・百合をお読みの皆さん、こんにちは。後期中央委員長を務めさせていただいた染谷康貴です。今まで私がどのようなことをしてきたのかについて、中央委員長とは、そもそも中央委員会とは何かということも含めて説明していきたいと思います。

中央委員会とは昭和大学1年生の代表学生によって構成されている組織であり、いわば1年生だけの生徒会のようなものです。学生達と先生方との橋渡し役で、学生からの要望を先生方に、逆に先生方からの提案を学生たちに伝えるなどしています。

そういった組織の中で最も先生方と学生のパイプ役となるのが中央委員長です。昨今猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で、学生は富士吉田キャンパスから外出ができない状況にありました。そのため、一部の学生には精

このような経験をする中で私たち中央委員は、時には苦しんで涙を流し、特にこのコロナ禍において悪戦苦闘する日々を送ることを強いられました。それを陰ながら支えてくれた友人、寮監先生、教員の皆さま、事務員の方々のサポートがなければ、中央委員としての活動を有意義に行うことができなかったと思います。

私は、将来医師として患者さんのために何を為すべきなのかを考え、そしてまわりの仲間たちと協力して、チーム一丸となって行動することの重要性を、前期中央委員長の活動を通して学ぶことができました。

この経験を糧に、将来医師になる展望を見据え、精進をしていきたいと思っています。

神的なストレスがかかっていた。中央委員会としてこういった学生の要望を見ることができず、学校側に受け入れてもらえる提案をしようと試行錯誤を繰り返し、私も何度か先生のもとに足を運びました。結果として学校側に私たちの案が受理されるには至りませんでした。この過程を経たことで、よりいっそうしっかりと学生に対応していただけになりました。

昭和大学の新入生となられた皆さんには、ぜひこういった役割に積極的につくことをお勧めします。私は中央委員長として学生生活に貢献できたことをとても誇りに思います。サポートしていただいた先生方や中央委員、学生の皆さんにもこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

自然教育園担当 富士吉田自然教育園開園10周年を目前に

学生教育環境整備室 根本 双葉

昭和大学富士吉田自然教育園は、本学の学生が豊かな自然環境のもとで心身を鍛え、人間性を高めるといった自然環境教育の実践を目的として、2012年に富士吉田校舎に設置されました。当施設は今年で開園から10年を迎えますが、まだまだ整備の途上にあります。当園には附属施設として医薬資源園を併設しており、講義や実習等にも活用されています。

園内には、バーベキューやピザづくりを楽しむエリア、ハーブや野菜を栽培するエリア、林内の散策や芝生に寝転ぶことのできるエリアがあり、多彩な楽しみ方ができます。また、植物観察会や野菜の収穫体験、ジャックオランタンづくりや焼き芋づくりなど年間を通して自然と触れ合うイベントを企画し、実施しております。

園を訪れた学生は、キジやコゲラなどの野鳥を見つけては喜び、野花を摘みながらは感嘆し、土や草の匂いに刺激を受け、目に飛び込むあらゆるものに感情を表し共有しています。種は今日蒔いても明日芽を出してくれるわけではありません。しかし、今種を蒔かなければ花は咲きません。小さなことかもしれませんが、この経験がこれからの人生の「豊かさ」に繋がってくればと願っています。



自然教育園 ここでしか体験できない豊かな自然

保健医療学部作業療法学科 野原 冬竜 (本庄東高校出身)

富士吉田キャンパスは富士山麓に位置しているだけあって、自然豊かなキャンパスとなっています。そのような自然豊かな特色を活用したのが自然教育園です。

自然教育園では課外活動支援室企画のイベントに参加したり、コンパでバーベキューを楽しむこともできますが、豊かな自然の中でたくさんの発見をすることができます。例えば春ごろにはキジのつがい、夏ごろには、樹皮などに着生して細長い葉を垂らすノキシノブや葉っぱの真ん中に花が咲くハナイカダなど、今まで目にしたことのない不思議な植物、秋ごろには、形、色、大きさ、生えている場所などが実に多種多様で興味を引くキノコなど、数々の珍しいものを観察することができます。また一年次は寮生活ということもあり、常に他の人に囲まれながら生活します。少し人と関わることに疲れてしまった時は自然教育園を訪れて豊かな自然の中、独りで過ごしてみると今までになかった考えが出てくることもあります。自然教育園は友達と一緒に訪れても、一人で訪れても、貴重な経験の宝庫です。このような恵まれた自然を満喫できる場所はそう多くはないので、富士吉田キャンパスに来た際にはぜひ自然教育園に足を運んでみてください。



指導担任

なかよしのなかま

富士吉田教育部 准教授 佐野 佳弘

2021年度の佐野コンパは男女共に非常に仲が良いというのが入寮当初からの印象でした。本年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症問題により自由な学外への移動ができないものの、そのような制限の中でも多くの学生はグラウンドやテニスコート、自然教育園などで交流を深めていました。夏季の退寮や冬季の完全退寮に向け、片づけなどの生活指導を行うために寮を訪問した際も、それぞれの部屋同士の連携などがよく伝わり、とてもよいコミュニケーションが取れていると感じました。コンパのイベントとしては、自然教育園でのバーベキューを秋に行いました。コンパ全員で手分けしながら調理をするための準備を行い、とても和気あいあいと薪の暖かい火を囲んで食事を楽しむことができました。

彼らとの面談で寮生活のことを質問した際には、楽しい寮生活であったことや、終わりになることがとても寂しいと思っている、という言葉をごんごんに多く聞いた年は今までにありませんでした。来年度、彼らは旗の台キャンパスや長津田キャンパスで学修することとなりますが、生涯の友人として今後も交流を続けてもらえればと願っています。



コンパ

最強コンパだ!

春4月、私たちは昭和大学に入学し、寮の同部屋のメンバーに出会い、隣の部屋のメンバーに出会いました。同じコンパのメンバーということもあり、すぐに打ち解け仲良くなりました。

コンパ全員での初めての対面のとき、私たち男子は女子の多さに圧倒され、肩身が狭く感じられました。なんとか仲良くならうと休日にコンパで集まり、大学生とは思えない「鬼ごっこ」や「だるまさんが転んだ」などをして遊んだりもしました。

少しずつ顔と名前が一致してきたと思った矢先、他のコンパではマックやケーキなどの差し入れがあることやバーベキューを行うことが分かったのです。私たちのコンパには差し入れもない!バーベキューもない!コンパ全員で考え、個



サークル

皆で創り上げた寮祭公演

薬学部薬学科 石井 朋花
(中央国際高等学校出身)

寮祭で公演ができると決まったときに思ったことは、どのように練習していこうかということでした。演劇サークルは、メンバーの半数が演劇初心者であると同時に、声劇に興味がある人たちが集まったサークルでもありました。そのため、まずは演劇に興味を持ってもらうことを意識しました。また、演劇指導についても、先輩がいなくても、劇の向かう方向を皆で一致させ、互いにアドバイスし合う必要がありました。

夏休み中に配役を決定し、読み合わせを始め、入寮してから本格的な練習に入りました。再試験や初年次体験実習の合間を縫う必要があったため、練習時間の確保も思うにまかせず、不安が付きまわっていましたが、アドバイスをすることにそれを吸収し、格段に成長していくメンバーの姿は励みとなりました。結局、音響と照明を合わせた練習ができたのは本番一日前という非常にギリギリの状態でした。

そんななか迎えた本番で、予想以上に多数ご来場くださった観客の皆様、観客側から聞こえてくる笑い声、練習以上に生き生きとしているメンバーの姿には思わず胸が熱くなりました。笑顔で公演が終われたのは、多くの方々の協力と皆で創り上げるというサークルの醍醐味を享受できたからこそです。皆で創り上げた景色、思い出は決して忘れられません。本当にありがとうございました。

歯学部歯学科 筧 俊祐
(佐久長聖高等学校出身)

面談の際、先生に一人ずつ差し入れやバーベキューのおねだりすることに決めました。

一致団結の甲斐あって、差し入れをゲットすることができ、バーベキューを行うことができました。(先生、ありがとう!)それを機にコンパの団結力が高まり、コンパでテニスをしたり、コンパ内にカップルができたりなどコンパでの活動(?)が活発になりました。寮祭のプログラムのひとつであった「最強コンパ決定戦」ではコンパの団結力を存分に発揮し、最強コンパの座をつかみ取ることができたのです。今では気軽に相談や話ができる最高の仲間となりました。

※コンパ指導担任を務める教育職員が担当する、およそ16~24名の学生の集団の俗称。



白百 権合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第42号(特別号) 2022.4.3発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403

特集 富士吉田キャンパス 寮祭2021



寮祭実行委員長

かけがえのない寮祭

薬学部薬学科 有村 優希

(東京学芸大学附属国際中等教育学校出身)

2021年度寮祭実行委員長を務めさせていただきました。有村優希です。今年度は「Holo i mua」というテーマのもと寮祭を運営させていただきました。「Holo i mua」とは、ハワイ語であり、日本語では「いつでも前向きに進んでいこう」という意味を持つ言葉です。

新型コロナウイルスの影響により、学生それぞれが思い描いていたような大学生活とは程遠かった入学当初。私は寮祭というひとつの行事を通して、富士吉田での大学生活を明るくものにしたいな、という想いをもち、寮祭実行委員長に立候補しました。

現実的な話をすると、今年度の運営は変則的な環境や状況が重なり、「当たり前」や「例年通り」だったものは全くと言っていいほど通用しませんでした。実際に、当初6月に開催予定だった寮祭は急遽先送りになり、11月に開催されました。そんな前例のない7か月間もの準備期間に実行委員は全力で仕事に取り組んでくれました。その頑張り 덕분에、寮祭の成功はなかったと思います。また、こうした未曾有の災禍にも関わらず、私達学生の意見を最大限汲み取り、寮祭の開催を許可くださった先生方、そして、寮祭実施にご協力くださいました事務課をはじめとする大学関係者と富士吉田・河口湖地域の業者の方々はこの場を借りて深く御礼申し上げます。

最後に、私にとって「寮祭」は一生の思い出となりました。それは、寮祭の企画や運営の楽しさのほかに、寮祭当日にたくさんの学生が「楽しいよありがとう」と声かけをしてくれたからです。この寮祭で築き上げた人とのつながりを大切にしたい、2年次以降の学生生活を送りたいと思います。



イベントを撮影する倉田教育部長



寮祭ポスター チャンスをつかむ

歯学部歯学科 川島 由芽
(吉祥女子中学高等学校出身)

私は寮祭パンフレットの表紙イラストの作成をしました。私は絵画等で表現することが好きで、大学の授業以外で表現できる機会を望んでいたところ、このようなチャンスが訪れたので、表紙イラストの作成の応募をしました。

作り上げる過程で特に私が焦点を当てたのは、コロナウイルスと戦う医療人である私たちが前に進む(holo i mua)姿を表現することです。木版画が好きで私は、日本を代表する東洲斎写楽の大首絵と葛飾北斎の富嶽三十六景からインスピレーションを受けました。これらの作品をパロディ化し、融合させ、時に鑑みマスク等を装着させました。また医療人がコロナウイルスにアッパーカットをいれて闘っていることを表現し、その医療人を応援するかのよう追い波を描きました。

ほかにも、寮祭の出し物に関する募集ポスターを作成しました。こちらは「主張」というワードを意識して作成し、マスクを破って口が出てくるように描きました。自分が好きで得意な「絵を描くこと」をこの昭和大学のような医療系大学で活かせるタイミングは難しいと勝手に判断していました。しかし意外と機会はやってくるものであり、学業ばかりでなく、創作という場が存在し、その好機を逃さずつかみ取ることで個性を活かした活動ができて、充実した気持ちです。



後夜祭部門長 一生ものの宝物

今回の寮祭を通して感じたこととして、物事は自分一人で動かすことができず、周りの方と支えあうことでより良い方向へと進むこと、さらに、目に見えないところで支えてくださり、その方への感謝の気持ちを忘れてはいけないということを実感しました。

後夜祭という枠を超えて、私たちが将来医療従事者として患者さんに寄り添うためにも必要な経験だったと感じています。誰しもが、自身の考えや思いを口にできるとは限りません。そのように言葉にできない思いを部門長としてどのように感じることができるか、理解して寄り添うことの大切さを学ぶ



会計部門長 支えてくれてありがとう

医学部医学科 小俣 結生
(立教女学院高等学校出身)

私は2021年度の会計部門長として寮祭実行委員会で、そして医学部代議員代表として中央委員会で活動しました。力不足の部分はあったかもしれませんが、多くの人に支えられてこれらの役割をやり切ることができたと思います。

会計部門の主な仕事は、予算案の作成と会計処理のチェックです。各部門長と先生方の間に立って行わなければならない仕事が多々ありました。今年はコロナ禍での寮祭であり、寮祭の予算が例年に比べて少なかったため、無駄なお金を使わないよう努力しました。また、寮祭直前や寮祭中は会計部門としての仕事はあまりなかったため、他の部門のサポートにまわることで委員会を支えることができたと思います。

課題をやらなければならないのに毎日委員会の集まりがあったり、遊びたいのに急に呼び出しがかかったり、たいへんなことも多々ありました。仕事が後期試験の直前まであり、勉強したいのに仕事がありできない、というもどかしい思いもしました。正直、何度も投げ出したいくなりました。しかし、寮の同部屋メンバーが私の愚痴を聞いて励ましてくれたり、友人たちが「がんばれ!」など様々な声をかけたりしてくれました。これらの声掛けがなければやり遂げることはできなかったと感じています。先生方、事務課の方、友人たちといった様々な人の支えがあったからこそ、昭和大学に進学してよかったと胸を張って言うことができる充実した一年を送ることができたと思います。



医学部医学科 筒井 瑞貴
(秀明高等学校出身)

ことができました。また、寮生活で得られる友人との繋がりは、誰にとっても宝になる友人を見つけることができる場だと感じました。後夜祭をやり遂げていくなかで多くの友人に支えられましたが、多くの人が寮生活という経験したことのない環境に足を踏み入れ、とても近い距離で衣食住を友人と共にすることができたこともまた、一生の宝物になったと感じています。

大切な友人たちに支えられながら後夜祭をやり遂げることができ、とても良い思い出となりました。



広報アルバム部門長 リモートでのパンフレット作成

薬学部薬学科 山名 皐月
(大分東明高校出身)



寮祭では、広報/アルバム部門長を務めさせていただきました。広報/アルバム部門は、寮祭のスケジュールや、ステージ発表を行う団体の紹介を載せた、寮祭パンフレットを作成するのが主な仕事でした。

広報アルバム部門の部門員14人で、パンフレットに何を載せるか、何度も会議をおこなって、練りに練りました。コロナの感染拡大に伴って再入寮が延期されたことから夏季退寮の期間が長引き、会議をオンラインで行い、自宅でパンフレットを作成するなど、コロナ禍で直接会えない間も、寮祭に向けての準備することに苦労しました。

その甲斐もあってパンフレットは、先生方や寮監さんへのインタビュー、一年生の出身地調査、学生が寮で感じた「あるある」などをまとめたり、スタンプラリーを開催したりと、昭和大学の学生なら絶対に楽しんで読んでもらえるような内容を盛り込んで作ることができました。

パンフレットを読んだ人達から、面白かったよ、読んでいて楽しかったよなど、嬉しい感想をたくさんいただいたことはもちろん、部門員のみならず一緒に一つのものを作り上げたという体験そのものが私にとっての宝物になりました。



物品部門長 皆で成功させた寮祭

歯学部歯学科 栗山 晃一

今年度の寮祭はコロナが最も流行していた時期と重なり、おそらく中止になるだろうと考えていました。しかし現実とは予想と異なり、寮祭は時期を秋に移し開催されました。昭和大学は医療系の総合大学です。従ってこの期間にコロナの感染者をゼロに抑え込むことが至上命題であることは言うまでもありません。結果、一人の感染者を出すこともありませんでした。これは全員が寮祭を成功させるために一致団結して検温や手指消毒を毎日欠かさず行い、そして何よりも健康に留意した努力の賜物だと思われます。

ところで私の部門は他の部門と比べて華々しい活躍があるようなどころではありませんでしたが、充実した寮祭を支えることができました。私たちの仕事は各部門から物品の申請を受け、書類を作成し大学の事務課に提出します。その申請が通れば希望の物品を各部門の責任者へ分配します。地味な仕事ですが、なくてはならない重要な仕事だと自負していました。

最後に、このような時勢の中でも寮祭を行うことができたのは、尽力してくださった先生方をはじめとする大学職員の方々のおかげでもあると思います。関係各位の皆さん、そして学生全員に感謝の意を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

寮祭副実行委員長 誰のために頑張った?

私が昭和大学を志望した理由の一つは寮生活でした。そして、寮生活のなかで寮祭実行委員長の募集の話聞き、迷わず立候補しました。寮祭副実行委員長となった私は、寮祭全体の構想づくりや、寮周辺のイルミネーションの点灯式に委員長とともに関わりました。

寮祭の構想づくりでは、新型コロナウイルス感染症対策と、そのなかで最大限盛り上がる方法を考えるために、試験や課題で忙しいなかでも委員会のための時間を割くこともありました。しかし、イルミネーションの点灯式について考えている際にあることに気づきます。「あれ、俺はカップルのために頑張っているのか?」イルミネーションの点灯や、後夜祭で



イベント部門長 コロナ禍でも最高の寮祭!!

薬学部薬学科 半澤 朋子

私は今回の寮祭でイベント部門の部門長を務めました。最初は右も左もわからず、ただただ仕事量の多さに忙殺されて、このままでも本当に寮祭を成功させることができるのかな?とかなり不安でした。しかし仮装大会やクイズ大会、のど自慢大会などの企画や、どのステージでどんなふうにも音響や照明を使って企画の演出をするのかということをも具体的に考えて徐々に形作っていくにつれて、仕事は大変でもやりがいを感じるようになりました。先生方にピシッと厳しい意見を言われたり、よくあることですが途中でほかの実行委員と意見がうまく合わ

装飾部門長 やりきった寮祭

歯学部歯学科 甲矢 桃子
(玉川学園高等部出身)

私にとって寮祭は、寮生活全体の中で一番楽しく、最も思い出に残るものとなりました。当初、私はなんとなく装飾部門長になりました。なんとくではあったものの、「絶対に印象に残る装飾をする」という気持ちで常にありました。そこでどこにどのような装飾をしたら寮祭を盛り上げることができるかと一時期ずっと考えていました。寮祭中、沢山の学生のSNSで自分の考えた装飾が写っている時にはとても達成感がありました。吉カブ(富士吉田での寮生活の間にカップルになった人たちの俗称)にも貢献できたと思います。

しかし、ここまで来るには大変なことの方が多かったです。企画書通りに進まなくてイライ

医学部医学科 田中 裕惟
(桐蔭学園中等教育学校出身)

の花火の雰囲気や想像するとカップルがとても羨ましくなり、悔しくなりました。しかし妥協せずに進め、本番を迎えると、寮祭はとても盛り上がり大成功に終わりました。妥協しなかったことが寮祭の成功につながったと思います。「誰のために」と題しましたが、寮祭に関わって得られた経験は私にとってかけがえのないものとなり、今回の努力はなによりも自分のためになったと思います。

最後に、コロナ禍での寮祭開催を許可し開催に尽力してくださった先生方はじめ大学職員の方々、協力してくれた学生に感謝を述べさせていただきます。ありがとうございました。

前中夜祭部門長 かけがえのない思い出

歯学部歯学科 徳永 有紗
(広尾学園高等学校出身)

たくさんの学生が同じ空間で、同じ時に同じもの見て楽しさを共有する、今の情勢下では本来、到底叶わないであろう光景を目にした時、この寮祭は一生忘れられないものになる。それを強く実感しました。

寮生活が残すところ1ヶ月となった時期に行われた寮祭は、寮生活最後のイベントであり、私は前中夜祭部門の部門長を務めました。自分に部門長を務まるのかという不安や、コロナ禍での寮祭は初めてだったため、前例がないことに対する不安、また、前中夜祭部門は特に、その場で楽しんでくれる人がいて初めて形になる企画がほとんどであったので、当日になるまでこれで大丈夫なのだろうかという不安がありました。

しかし、当日は寮祭実行委員長や他の部門長の協力、さらに部門員の臨機応変な対応のおかげで、トラブルなく進行することができました。そしてなにより、ダンスやバンドでは歓声を上げ、「最強コンバ決定戦」ではコンパ一体となって白熱するなど、どの演目や企画も全力で楽しんでいた学生の姿がとても印象に残っています。今回、コロナ禍に関わらず、このような寮祭を開催することができたのは、先生方をはじめ、事務課や食堂の方々などのご協力があってからです。本当にありがとうございました。この寮祭によって、寮生活が何物にも代えがたい、よりかけがえのない思い出となりました。



富士吉田のおいしさいっぱいの寮祭へ

医学部医学科 深見 千穂
(群馬県立沼田女子高等学校出身)

私たちコロナ対策・食販部門は、寮祭2日間の衛生対策・食事とデザートの手配を主に担当しました。コロナ禍での寮祭開催という前例のない状況で、いかに安全で、しかもふだんの寮生活では体験できない非日常的な食事を楽しんでもらうかということに部門全体で取り組んだ日々でした。

そして、最終的な私たちのメイン企画は富士吉田市と河口湖町の飲食店の皆さんが提供されたお弁当によるフードフェスに決まりました。敷地外に出られる状況であれば昭和大学で賑わっていたであろう長い関わりのあるお店から、ちょっと新しくおしゃれなお店まで。また、ジャンルも洋食、中華、イタリアン、焼肉など幅広く揃え、学生に食べたいものをアンケートすることで、できる限り希望に沿うようにしました。

ついに迎えた寮祭当日。校舎の一教室で開催されたこじんまりとしたフードフェスではありましたが、通路を一方通行にしたり、各店舗の配布テーブルをできるだけ密にならない配置にしたりするなど、工夫を凝らして行うことができました。また、当日のフードフェス会場は寮祭のための仮装をした学生たちが多く訪れ、とても賑わっていました。その姿とお弁当の美味しい香りが相まって、「これぞ寮祭」というようなとても非日常的で楽しい空間を創ることができたと感じています。

